

学校を支えてくださる 地域の皆さんへ

教育長からのメッセージ

教員の長時間勤務は、国の調査においても深刻な状況となっており、本市の学校も同様の状況にあります。この長時間勤務は、健康に影響があるだけでなく、教員自らが能力を高め、質の高い教育を行っていく上でも大きな支障になっています。また、これにより教職は多忙な仕事として敬遠され、教員を目指す人の数が減少しています。こうした状況を改善し、将来に渡って、広島市の未来を担う子どもたちに、よりよい教育を提供していくためには、保護者や地域の皆さんの御理解と御協力をいただきながら、学校における働き方改革を進める必要があります。



【広島市教育長】
糸山 隆

1 教員は日々、「子どもたちのため」という思いで働いています。

学校の教員は、学習指導のみならず、生徒指導や部活動指導、保護者や地域との連携など、夜間や休日においても業務を行うことがあり、勤務時間（1日当たり7時間45分）に応じたメリハリのある働き方に改めていく必要があります。

- ・ 夜8時、9時でも家庭訪問に行かなければならないことがあります。
- ・ 土曜日や日曜日でも部活動の指導で出勤することがあります。
- ・ 常に子どもと一緒にいるため、休憩時間の確保が難しい状況もあります。
- ・ 教員には時間外勤務手当が支給される制度がありません。

子どもがいない夏休みにも、多くの研修を受講したり、教材研究を行ったりしています。



2 子どもたちの未来を育む魅力ある職場環境をつくります。

多くのベテラン教員が退職する時期を迎え、教育現場ではこれまで以上に新規採用者の確保が急務となっていますが、採用試験の競争倍率は年々低下傾向にあります。高い志を持った多くの人が教員になりたいと思えるよう、魅力的な職場環境にすることで、子どもたちによりよい教育を続けていきます。

【教員採用試験の競争倍率の推移】

区分	平成20年度	平成27年度	令和2年度
小学校	5.4倍	2.7倍	1.6倍
中学校	14.8倍	4.9倍	2.9倍



他都市でも同様に深刻な志願者の減少が続いており、教員の確保は全国的な課題です。

3 業務分担の見直しなどにより、教員が子どもと向き合うための時間を確保します。

国は、学校や教員が行っている業務について、子どもたちのために限られた時間を有効に活用し、教員の専門性が発揮できるかといった観点から、役割分担や適正化の方針を示しました。

基本的には保護者や地域の方等の協力により行う業務	学校の業務だが、教員以外の職員等でも行える業務	教員の業務だが、負担軽減が可能な業務
・ 登下校に関する対応 ・ 放課後から夜間などにおける見回り、児童生徒が補導された時の対応 ・ 地域ボランティアとの連絡調整 など	・ 児童生徒の休み時間における対応 ・ 校内清掃 ・ 部活動 など	・ 支援が必要な児童生徒・家庭への対応 ・ 授業準備 ・ 給食時の対応 ・ 学校行事の準備・運営 など

(参考 平成31年1月25日 中央教育審議会「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について」より)

ポイント

教員が子どもたち一人一人にしっかりと向き合いながら、子どもたちの指導に専念できる環境を整備することは、今後とも質の高い学校教育を続けていくために不可欠であると考えています。そのためには、学校・家庭・地域が教育目標を共有して、それぞれが子どもたちのために何ができるかを考えて、連携・分担していくことが重要です。

4 本市でも、保護者・地域と協働した学校における働き方改革を進めています。

広島市教育委員会では、平成30年12月に「広島市の学校における働き方改革推進プラン」を策定し、「保護者・地域等と協働した働き方改革の推進」に取り組んでいます。



HP

広島市 学校における働き方改革推進プラン

検索

ポイント

地域全体で子どもたちによりよい教育を行っていくため、保護者や地域の方、PTAや子ども会などの関係団体のみなさんには、これからも一番身近な学校の応援団であっていただきたいと考えています。

5 学校と地域の新たな関係づくりが始まっています。

すでに多くの地域で、地域のみなさんと一緒になった新たな学校づくりが始まっています。



すでに始まっている学校を支える地域の取組

- 地域ボランティアとして、授業時間や休み時間に子どもと積極的に関わっています。
- 競技経験のない教員に代わって、部活動指導員として部活動の技術的な指導を行っています。
- 見守り活動などの登下校時における子どもの安全を守る取組を学校と連携・協力して行っています。



地域の子どものために、学校の活動に協力していきたいと思っています。

我々の地域でも学校との役割分担について、改めて話し合う機会を設けてみよう。



地域の方から支えられていることを感じると、子どものためにがんばろうという気持ちがより一層強くなります。



- 祭りの夜間パトロールを、地域のみで行いました。
- 土曜日や日曜日に開催していた地域行事への教員の参加や、夜間に教員が参加する会議の時間設定について、負担にならないように見直しを行いました。
- 夏休みの学校一斉閉庁日の際に、学校花壇の植物への水遣りを地域で行いました。

ポイント

学校運営は保護者や地域の方に多くの協力をいただいて成り立っています。同時に、地域コミュニティの活動は学校単位で行われることが多く、学校は地域づくりの拠点となっています。このように地域と学校は強く結びついています。

そのため、学校の子どもたちや先生たちが元気で、学校が活力ある場となることは、地域の活力にもつながるものと考えています。



学校業務改善アドバイザー※からのメッセージ

※ 働き方改革を推進するため、文部科学省が全国各地に派遣する有識者



先生たちが、社会人・家庭人としての知識や経験を広げることは、子どもたちや保護者の考え・感じ方を理解する土台となり、さらには、社会や日頃の生活と関連づけて教えることで子どもたちの関心を高め、授業をより分かりやすくすることにつながります。

また、心のゆとりを持つことが、子どもと接する上で大切です。先生たちが仕事に見通しを持てること、仕事の質を高めていくための時間を確保すること、その実現に向けて家庭や地域社会におかれても、理解と協力で先生たちを応援していただければと思います。

善積 康子 氏

(元中央教育審議会『学校における働き方改革特別部会』委員)